



# 鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『狭い門から入りなさい』

聖書(マタイ福音書7章13節)

牧師 河合裕志

この言葉、前の文語訳では『狭き門より入れ』とあり、こちらの方で聞いたことのある人は結構いるかも。有名大学に入るのは狭き門と言われる。医師や弁護士になるといった場合にも難しい試験、狭き門が待っている。こうした難関にあえて挑戦して行く。そのために懸命に努力する。こういう意味でこの言葉は一般に使用されているよう。この用い方、これはこれでいいと思う。目標を高く置いてこの達成のために努めることはよいこと。こんなところでいいや、とあまりレベルを下げないこと。イエスは一体に高きを目指せと私達に励ましてやまない。その程度で満足してはいけないうまいよ、易きに流されてはいけないうまいよ、と。

それからこの言葉には倫理道徳的な意味もある。イエスはこの言葉に続けてこう言っている。『滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない』。

滅びとか命とか言っている。これは『狭い門から入りなさい』のすぐ前に言われている言葉と関係していそう。『人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい』。この言葉。これはとっても難しいこと。待ちの姿勢ではなくこちらから積極的に愛のわざをして行きなさい、と

いうのだから。でもその方向で努力し実行する人は命に、永遠の命に、天国に通じる狭い門に行く人だよ、とイエスは言っている。

広い門から入って広い道に行く人は自分のことしか考えない人の道。自分の幸いだけを思う安易な道。この道が大勢の人がゾロゾロ歩んでいる。この行く手には滅びが大きく口を開けて待っているよ、とイエスは警告。

有名大学等の受験を目指すことと大分違っているようだけど、でも難関であることは共通している。相手が私にいいことしてくれたらこちらもしてやるのではなく、こちらから進んでやって行く、これはやはり難関。これにあえて挑戦しなさいよ、とイエスは呼びかけている。人間の可能性に訴えている。人間は捨てたものではない。高みに向かって登って行くことができる。

皆んなが行く平ぺったい道、安易な道は選ばない。利己主義の思いとたたかって行く。有名大学に行くのもただ自分の幸せ実現のためだけなら残念なこと。世のため人のための視点を持てたら。イエスよ、私達を助け狭い門を選ぶことができるようにしてください。

## 集会案内

主日礼拝 : 毎日曜日午前10時15分  
主日夕拝 : 毎日曜日午後6時  
子どもの教会 : 毎日曜日午前9時  
中高青年会 : 毎日曜日礼拝後  
おしゃべり会 : 毎木曜日午前10時  
聖書を学ぶ集い : 第4水曜日午前10時